



PRESS RELEASE

2019年7月22日

麻布大学、いのちの博物館を学生が運営を支援 博物館解説サークル「ミュゼット」が、学生独自の自主的な活動を展開

麻布大学

麻布大学（学長：浅利昌男、本部：神奈川県相模原市、URL:<https://www.azabu-u.ac.jp/>）は、附属施設の「いのちの博物館」で、国立科学博物館の協力により実施中の企画展示 10「3D プリントレプリカに触れるーフォトグラメトリーの世界ー」を本学学生の博物館解説サークル「ミュゼット（Musetto）」が、来場者へ解説を担当します。

今回の企画展示（5月14日～9月14日）では、ハンズオンコーナーで3Dプリントレプリカに触れることができます。8月3日・4日開催のオープンキャンパスの際は、多数の来場者への解説を担当します。企画展示について：<https://life-museum.azabu-u.ac.jp/news/2019/05/103d.html>



「いのちの博物館」は創立 125 周年を記念して 2015 年に設立し、獣医学系、生命・環境科学系の教育・研究から得た貴重な標本や資料を集めて、わかりやすく迫力のある展示をしています。

展示されている標本は全て本物で、模型ではなく肌で感じて楽しみながら、いのちの大切さを楽しく学べます。また、ハンズオンコーナーで本物の骨に触れて学ぶことができます。

「ミュゼット」は、いのちの博物館の解説サークルで、博物館（museum）の助っ人（suketto）という役割から、命名「Musetto」しています。学生が解説を担当することにより、学生自身の学びを深められるとともに、来館者に展示物についてより深く知ってもらえることができるため、両者にとっての学びの場を提供できるものです。学生は博物館のガイド役として、必要な知識やスキルを身に付けるために専門教員からのトレーニングを受けて、来館者への解説を行っています。今回、約 70 人の 1 年生がレクチャーを終えて新たに解説を担当します。



現在、「ミュゼット」は、全学 2 学部 5 学科から総勢約 160 名の動物好きの学生達が集まり、若いユニークなアイデアで、学内外で様々な活動を展開しています。主な活動は毎週土曜日に、博物館のハンズオンコーナーでの来場者への解説を担当。学生独自の企画・運営により、環境学校など年に 10 回ほど開催し、昨年から、県内の高校へ出向いての出前授業を実施しています。



○ミュージゼットについて

「ミュージゼット」は、獣医学部動物応用科学科野生動物学研究室を母体に4年前に発足した大学公認の学生サークルで、次のような活動を展開しています。

- ・毎週土曜日に、博物館の来場者への解説
- ・骨格標本の作製
- ・大学祭やオープンキャンパスでの解説活動
- ・ワークショップ：「フクロウの巣からネズミの骨を取り出す」
- ・夏休み子ども教室：「博物館で骨を学ぼう！～タヌキの骨とサル・シカの骨～」
- ・春休み子ども教室：「粘土で動物をつくろう」

○いのちの博物館について

麻布大学は獣医学の学校から始まり、現在では環境問題にも取り組む大学です。大学での研究により、標本をはじめとする学術的に価値のある資料が生まれます。また、教育のための教材もあります。これら学術資材を博物館で保管することを大学の使命として、創立125周年の2015年に「いのち」の博物館として設立されました。

先人が残された貴重な遺産を継承するとともに、「1. 研究内容、2. 動物標本、3. 歴史資料」を広く社会に紹介しています。

<https://life-museum.azabu-u.ac.jp/>



●本件のお問い合わせ先

<広報部門の連絡先>

- ・麻布大学 広報課 担当：栗末、有嶋
- ・電話：042-769-2032
- ・メール：koho@azabu-u.ac.jp
- ・HP <https://www.azabu-u.ac.jp/>